

# EU Indicators

発表日: 2019年10月25日(金)

## 欧州経済指標コメント: 10月ドイツIfo企業景況感

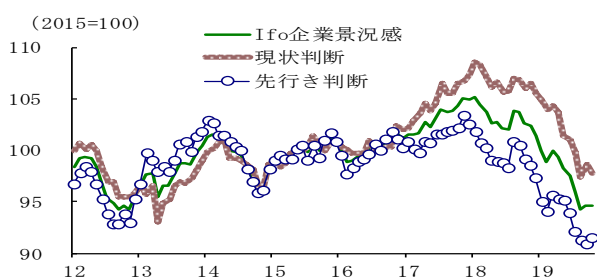
～下げ止まりも反発は確認できず～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理(Tel:03-5221-4527)

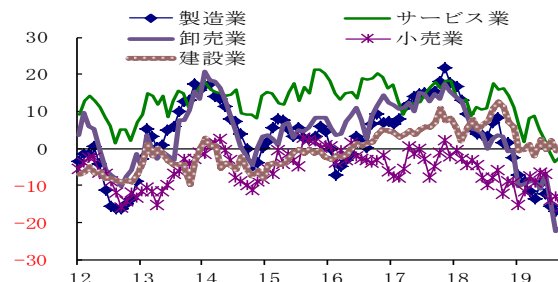
- 10月のドイツIfo企業景況感(2015年=100の指数)は、6ヶ月振りの改善となった前月から横這い。内訳は、現状判断が前月差▲0.8ポイントと前月改善分の多くを吐き出し、今次サイクルの下限を更新した8月に接近した一方、先行き判断が2012年を下回る水準で低迷しているが、同+0.6ポイントと7ヶ月振りに改善した。先週発表のZEW景況感、前日発表のPMI同様に、急激な業況悪化に歯止めが掛かってきたものの、明確な反発を確認するには至っていない。
- 業種別の業況判断(ゼロが好不況の分岐点)をみると、現状判断については、速報段階で入手可能な製造業、サービス業、卸売業、小売業、建設業の全業種が前月対比で悪化。先行き判断については、小売業、建設業が前月対比で悪化した一方、製造業、サービス業、卸売業が改善。製造業の先行きの業況にやや明るさもみえ、こうした点はグローバルな業況底入れ期待と一致する。内需関連の先行き判断は、サービス業が前月対比で改善した一方、小売業が悪化するなど区々。前日のPMIでは製造業・サービス業ともに雇用判断に悪化が広がっており、家計を取り巻く環境悪化が徐々に顕在化しつつある。
- 今後は製造業部門の急激な落ち込みが一服するなか、サービス業への悪影響の波及に歯止めが掛かるか、それとも景気を下支えてきたサービス業が崩れることで、本格的な景気後退に陥るか、非常にナイーブな局面にある。操業短縮制度や過去の高めの賃上げ妥結率が家計の購買力を支えており、今のところ本格的な景気後退局面入りは回避されるとみる。

■ドイツ：Ifo企業景況感



出所: Ifo

■ドイツ：業種別の先行きの業況判断



出所: Ifo

■ドイツIfo企業景況感

	2018				2019										
	4Q	1Q	2Q	3Q	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
企業景況感(総合)	102.1	99.6	98.4	94.9	101.4	99.9	98.9	99.9	99.4	98.2	97.5	95.9	94.3	94.6	94.6
現状指数	106.0	104.4	102.1	98.6	105.6	105.0	104.0	104.3	103.8	101.4	101.1	99.8	97.4	98.6	97.8
先行き指数	98.4	94.9	94.8	91.4	97.3	95.1	94.1	95.6	95.3	95.2	94.0	92.1	91.3	90.9	91.5
業況判断	23.3	17.7	15.1	7.6	21.6	18.5	16.3	18.3	17.4	14.8	13.2	9.6	6.2	6.9	6.8
製造業	17.2	9.5	3.3	-5.6	15.0	11.6	9.6	7.4	4.1	4.5	1.3	-4.3	-6.0	-6.4	-5.5
サービス業	30.4	24.9	23.0	16.1	28.0	25.7	22.2	26.7	27.3	21.3	20.4	18.4	13.1	16.7	16.6
卸売業	14.7	8.6	7.1	-4.6	14.3	9.2	7.0	9.5	9.6	4.5	7.3	-0.3	-6.6	-7.0	-6.1
小売業	1.8	2.4	6.5	3.7	2.0	-1.1	1.1	7.2	3.4	7.0	9.0	4.9	4.0	2.2	1.4
建設業	29.9	20.1	23.1	22.2	28.7	20.1	18.4	21.8	21.8	24.9	22.6	23.1	21.4	22.1	21.3

出所: Ifo

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。